

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
 - 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
 - 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）
- 育てたい生徒像 “3つのC”
- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
 - 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
 - チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 新教育課程に基づいた教育活動

ア 新学習指導要領に基づく学習指導、学習状況評価を行う。

(2) 確かな学力の育成

- ア 基礎学力を身につけるための山田BT（ベーシック・タイム10分間の朝学習）を継続発展させる。
- イ 授業での取組み及び山田BT等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。
家庭学習時間が0分の割合を令和7年度には7%未満とする。(R2 12%, R3 8%, R4 14%)
- ウ 論理・表現I及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
- エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。
図書館の利用人数を令和7年度には4000人以上とする。(R2 3733人, R3 2197人, R4 3068人)
- オ 地球規模の課題SDGsをテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。
- カ インターネットを利用し、教育産業学習ツールの活用を進める。

(3) 授業力の向上

- ア 授業充実PTを核に全教科で「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内のICT環境の活用と、1人1台端末を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。
生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、判断、表現）の向上を図る。
※研究授業・公開授業の実施回数を、令和7年度まで引き続き年間10回以上とする。(R2 12回, R3 10回, R4 10回)
※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合について80%以上の水準を保つ。(R2 81.7%, R3 83.1%, R4 85.1%)
※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合について80%以上の水準を保つ。(R2 82.7%, R3 84.4%, R4 84.5%)
- イ 授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路を実現する。
※令和7年度まで、国公立大、関関同立大合格者数150人を維持する。(R2 182人(10クラス), R3 186人(9クラス), R4 164人(9クラス))

(4) 3年間を見通したキャリア教育

- ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
- イ 補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
※学力生活実態調査を1、2学年年2回、3学年年1回実施し、分析会を行う。
※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、令和7年度まで引き続き年1回以上実施する。(R2 3回, R3 3回, R4 3回)
- ウ 同窓会と連携したキャリア教育を実施する。
※卒業生によるキャリア講演会を実施する。

(5) グローバル人材の育成

ア 姉妹校であるBentleigh secondary college等との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊心」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を、令和7年度には90%以上にする。(R2 83.8%, R3 85.4%, R4 85.0%)

(2) 生徒会活動の活性化

- ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。
- イ 学校生活における自治意識を高める。

(3) 生徒指導を進める

- ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。
- イ 交通安全指導を継続する。

(4) 校内美化の推進

ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

(5) 人権尊重の教育の推進

ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

(6) 安全で安心な学びの場づくり

- ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。
- イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。
- ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。

(7) 始業式・終業式を、自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場とする。

ア 部活動の成果等を伝達表彰する。

<p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p> <p>(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p> <p>ア 各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>イ 各分掌と各学年のバランスを図る。</p> <p>ウ 安全衛生委員会の活性化により、働き方改革を図る。</p> <p>※超過勤務月間 80 時間以上の教員年間延べ人数を令和 7 年度には 20 人以下とする。(R2 25 人,R3 20 人,R4 23 人)</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>ア 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p> <p>ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p> <p>イ ホームページ、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(生徒アンケートより)</p> <p>全ての項目において、肯定的な回答が 75%を超えている。そのうち、学級・学校生活の満足度(95.3%、94.1%)、授業における ICT 活用について(99.0%)、教員の学習評価について(93.8%)、体育祭・文化祭について(94.3%)、クラス活動について(92.0%)、いじめ等の未然防止(93.3%)、ICT 活用の指導について(94.6%)、人権学習について(92.5%)、個人情報・プライバシーの保護(97.0%)、進路情報の提供および進路学習について(96.6%、97.0%)、奨学金情報の提供について(92.5%)、施設の教育環境(93.8%)、感染症対策(92.7%)、学校 WEB ページの充実(91.2%)、そして生徒自身の学校行事への取り組み(94.1%)、規律の遵守(95.9%)など肯定的回答がいずれも 90%を超えていることから、大部分の生徒にとって安全で安心な高校生活が実現できており、教員の指導に対する納得度、学校生活への満足度が、昨年度よりさらに高くなっていることが読み取れる。</p> <p>(保護者アンケートより)</p> <p>残念ながら、回収率が昨年度の 71.4%から、70.9%と下がった。保護者のみなさんにとって、多忙な年末の実施であったこと、学校の教育活動についてはよくわからないから回答できないという保護者が多いかもしれないとも推察されるので、教育活動についての積極的な情報発信にさらに努めるとともに、実施時期も検討したい。</p> <p>学校生活について(92.9%)、学習評価(91.1%)、学習内容等の情報提供(89.3%)、ICT 活用(81.3%)、体育祭・文化祭について(96.8%)、保護者の相談対応(84.6%)、いじめ等の未然防止(85.8%)、生活・学習規律について(85.3%)、進路指導について(82.7%)、社会のルールや人権尊重の教育について(86.5%、85.0%)、プライバシーの保持(96.1%)、災害等緊急時の対応について(85.1%)、授業参観や学校行事への参加(80.0%)、感染症対策(83.5%)、学校ホームページでの情報発信(87.2%)など肯定的回答がいずれも 80%を超えていることから、保護者にとっても、生徒が安全で安心な高校生活をおくっていることを実感してもらっていると思われる。「授業・学習指導」については、生徒の満足度と保護者の肯定的回答に開きがあることは近年の課題となっている。新しい学習指導要領に基づく評価については、入学当初に保護者への説明に努めたが、学習内容や評価について、保護者はどこまでの情報提供を望んでいるか、生徒が家庭で保護者に伝えているかなどを分析して、改善に努めていきたい。</p> <p>PTA 活動については、「参加したことがあるか」から、「学校の PTA がどのような活動をしているか知っている」と PTA 活動の認知度を問う質問に変更したが、残念ながら否定的回答の方が多かった。学校と PTA が連携して、PTA 活動の充実とさらなる周知に努めていきたい。</p> <p>(教職員アンケートより)</p> <p>教職員アンケートについては、近年肯定的回答率が高かった項目を中心に質問を精選した。「よくあてはまる」という肯定的回答が大幅に増えた昨年度より改善している。肯定的回答割合が高くない項目は昨年度と同様に「学校運営」・「組織力」の分野となっている。生徒・保護者の高い満足度は、日ごろの教職員の努力によって支えられている。教職員の多忙感を払拭することは難しいが、組織としてのチームワークの強化、問題意識や悩みを気軽に相談し合えるような時間と余裕を確保するように努めていきたい。</p>	<p>第 1 回 (6/12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学を行ったところ、ほとんどの教員が電子黒板機能付きプロジェクターを活用しており、巧みに活用している先生もいて驚いた。高校での電子黒板の活用に大いに期待している。 <p>第 2 回 (12/19)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率について、新型コロナウイルスの影響が残るなか、十分に高い数値を維持できていると思う。 ・アレルギー対応について、学校の食堂でも対応しているか。生徒からの問合せに答える形で対応している。 ・授業見学を通して電子黒板機能付きプロジェクターの活用状況の高さ、教員の操作の巧みさに驚いた。 <p>第 3 回 (2/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務80時間超の延べ人数が少ないが、どのような取り組みをしているのか。⇒会議の回数を約半分にし、会議資料等もペーパーレス化。欠席連絡もフォームで実施。デジタル採点や資料等のペーパーレス化など校務の効率化に取り組んでいる。 ・PTA活動についての質問に対し、本校のPTAは学校運営に協力的であり、学校見学会(授業見学)の受付等もしていただき大変助かった。任意加入であるが、活動内容・委員について説明することで、保護者は全員加入されている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 教育 力 の 向 上	<p>(1) 新教育課程に基づいた教育活動</p> <p>(2) 確かな学力の育成</p> <p>(3) 授業力の向上</p>	<p>ア・新学習指導要領に基づく学習状況の評価を行う。</p> <p>イ・授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。</p> <p>エ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。</p> <p>オ・SDGs をテーマとして、総合的な探究の時間等における主体的な探究活動を推進する。</p> <p>ア・ICT を活用した授業研究・授業実践を推進する。</p> <p>・新しく配備された電子黒板の活用を進め、より効果的な授業を推進する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断における学習評価の肯定的回答 90%以上の維持。[91.9%]</p> <p>イ・山田 BT アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を減らす。[14%]</p> <p>エ・利用を促進し年間の利用者数 3000 人以上を維持する。[3068 人]</p> <p>・貸出冊数の増加 [397 冊]</p> <p>オ・生徒全員の主体的なレポート発表ができたか。</p> <p>ア・ICT を活用した授業実践を各教科で年間 1 回以上行う。</p> <p>・各教科で電子黒板活用について研究を進め、教材を開発する。</p> <p>・1人1台端末の研究・活用を更に進め、</p>	<p>ア・肯定的回答 93.8% (○) 次年度 3 学年で評価を維持。</p> <p>イ・12%、引き続き、学習習慣を身に付けさせる取組みを継続。(○)</p> <p>エ・年間利用者数 3672 人 (◎) ・718 冊 (◎) さらなる活用を進める。</p> <p>オ・研究グループでの発表を全員行い、代表者が全体での発表を行っている。(○)</p> <p>ア・リーディング GIGA ハイスクールで導入された電子黒板の活用が非常に進み、ほぼ全員実施。(◎)</p> <p>・教材開発・研修会を実施、多くの授業で活用している (◎)</p> <p>・多くの教科で活用が進んでいる (○)</p>

府立山田高等学校

	<p>(4) 3年間を見通したキャリア教育</p> <p>(5) グローバル人材の育成</p>	<p>イ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現を図る。</p> <p>イ・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。</p> <p>ウ・卒業生、同窓会等と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>ア・姉妹校である Bentleigh secondary college 等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>	<p>各教科で教材を開発する。</p> <p>・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。[10 回]</p> <p>・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 80%以上を維持。[85.1%]</p> <p>・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合 80%以上を維持。[84.5%]</p> <p>・学校教育自己診断の(教職員)「ICT 機器を授業に活用している」の肯定回答率(以下、同様)90%以上を維持。[100%]</p> <p>・学校教育自己診断の(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」90%以上を維持。[96.9%]</p> <p>・生徒が主体となる授業実践を各教科で年間1回以上実施。</p> <p>・学校教育自己診断(教員)「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」を増やす。[80.4%]</p> <p>・学校教育自己診断の(教職員)「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率75%以上の維持。[78.2%]</p> <p>イ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。[164名]</p> <p>イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施できたか。</p> <p>・学力生活実態調査を1、2学年年2回、3学年年1回実施し、その分析会を行う。</p> <p>・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。</p> <p>ウ・卒業生等によるキャリア教育の機会を各学年とも年1回以上持つ。</p> <p>ア・姉妹校の Bentleigh secondary college 等と英語を用いた交流(メールやオンライン交流会)を実施する。</p>	<p>今後も ICT 活用をより進める。</p> <p>・LGH 事業に係る公開授業を、全府立学校・近隣中学校対象に実施。懇談週間の授業公開、教員間の授業見学日等も実施。全授業を公開したことから日数でカウントし、計 17 日 (◎)</p> <p>・85.9% (○) 取組みを継続して行う。</p> <p>・87.2% (◎) 取組みを継続して行う。</p> <p>・項目内容を「積極的に活用」に変更した 98.1% (○) 積極的な活用を進める。</p> <p>・99% (◎) 効果的な活用を進めていく。</p> <p>・実施している (○) 取組みを継続する。</p> <p>・88% (◎) 取組みを継続する。</p> <p>・86% (◎) 取組みを継続する。</p> <p>イ・225人 (◎)</p> <p>イ・学年ごとに実施できた (○) より効率的な方法を検討する。</p> <p>・分析会を実施し、生徒に還元している。(○)</p> <p>・1月に実施 (○) 取組みを継続する。</p> <p>ウ・教育実習生による講話 (○) 今後も実施する。</p> <p>ア・アイルランドの学校とメールでの交流を実施 (○) Bentleigh secondary college との交流再開に向けた準備を実施。</p>
<p>2 豊か たくま しい 人間 性の はぐ ぐみ</p>	<p>(1) 部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p> <p>(3) 生徒指導を進める</p>	<p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>イ・修学旅行を通し、生徒の力を伸ばす</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p> <p>イ・学校生活における自治意識を高める。</p> <p>ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。特に長期休業あけの指導を強化する。</p> <p>イ・交通安全指導を継続する。保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。</p>	<p>ア・部活動加入率 90%をめざす。[85.0%]</p> <p>イ・修学旅行後のアンケートでの満足度 95%以上の維持。[99.3%]</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上の水準を保つ。[91.4%]</p> <p>イ・生徒会執行部発信の取組みがあったか。</p> <p>ア・遅刻総数前年度比 5.0%減。[969人]</p> <p>・服装・頭髪違反者なし</p> <p>イ・交通マナー(規範意識)の状況(日々の登校状況、地域からの意見)、事故の未然防止。</p> <p>・登校指導の実施(PTA、地域等と連携)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 80%以上の維持。[80.5%]</p>	<p>ア・85.6% (1年 90.8%、2年 85.5%、3年 79.7%) 1年生加入は達成 (○) 新入生の加入を増やす。</p> <p>イ・97.0% (○)</p> <p>ア・94.4% (○) 生徒中心の活動を進める。</p> <p>イ・生徒総会 2回等で発信 (○) 執行部との対話を増やす。</p> <p>ア・昨年度比 20%減 773人 (◎)</p> <p>・大きな違反はなし (○) 継続して、指導を行っていく。</p> <p>イ・重大事故はないが、地域からのご意見はいただいている。(○) 安全に関する取り組みを継続。</p> <p>・地域からの協力をいただいた (○)</p> <p>・昨年度生徒と協議しルールを決めて取組みを行った。今年については協議を行わず、継続実施した。75.4%</p>

府立山田高等学校

	<p>(4) 校内美化の推進</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進</p> <p>(6) 安全で安心な学びの場づくり</p>	<p>ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p> <p>ア・いじめを許さない体制作り</p> <p>ウ 新型コロナウイルス感染症に対する対応を進め、安全で安心な教育環境を作る。</p>	<p>ア・毎日の清掃活動が徹底できたか。特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化ができたか。</p> <p>・終業式後等に一齐に大清掃（年3回）を行う。</p> <p>ア・人権研修会を年1回以上実施する。生徒の理解の状況（アンケートで把握）。</p> <p>ア・いじめ事案の未然防止ができたか。</p> <p>ウ・生徒が正しい感染症対策を行い、感染症による人権侵害がない状態にあるか。</p>	<p>(△)</p> <p>ア・トイレ・廊下・階段等の清掃はできた。教室について徹底できない部分もあった。(○)</p> <p>・大清掃を実施。(○)</p> <p>取組みを継続する。</p> <p>ア・同和教育に関する研修を実施し、効果があった。(○)</p> <p>・教員向けには性的マイノリティに係る研修を実施した。</p> <p>様々な人権課題に取り組む。</p> <p>ア・人間関係の相談を、いじめと認識して対応。重大事案なし。(○)</p> <p>ウ・人権侵害ない。(○)</p> <p>学校教育自己診断における「感染症の感染防止に対する学校の指導は安心できる。」への肯定的回答 生徒 92.8% 保護者 83.5%</p>
<p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 組織力向上:常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p> <p>(3) 教育活動の情報発信</p>	<p>ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。</p> <p>ウ・安全衛生委員会の活性化により働き方改革を図る。</p> <p>ア・地域との連携を深める。</p> <p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p> <p>イ・ホームページ、メールマガジンによりタイムリーな情報発信に努める。</p>	<p>ア・学校運営についての連携が取れているか。学校教育自己診断の連携項目 75%以上の維持[76%]</p> <p>ウ・超過勤務月間 80 時間以上の教職員延べ人数を対前年度比減する。[延べ 23 名]</p> <p>ア・地域教育協議会、地域行事に教員・PTA・生徒の参加を行う。[7回]</p> <p>・学校行事に地域からの参加をえる。</p> <p>ア・中学生・保護者に必要な情報を伝える学校説明会の実施ができたか。</p> <p>アンケートでの満足度 90%以上維持 [99.9%]</p> <p>イ・学校教育自己診断の連携、情報提供の項目が 80%を維持できているか。[80.6%]</p>	<p>ア・71.1% (△)</p> <p>組織的な運営を検討していく。</p> <p>ウ・以前と集計方法が変わり、以前の集計では7名、在校等時間では、27名。平均時間減。(○)</p> <p>分掌・部活動等、校務の平準化を図る。</p> <p>ア・11回、部活動等からの参加4回(◎)</p> <p>・文化祭・地域清掃等に参加(○)</p> <p>地域連携を進めていく。</p> <p>ア・99.5% (○)</p> <p>教員・来校者共に効率的な学校説明会を検討していく。</p> <p>イ・84% (○)</p> <p>情報発信について、ウェブページ、メールマガジン、グーグルクラスルーム等で行っていく。</p>